



核兵器のない世界をめざして ～核兵器の廃絶に向けて世界は今～

京都生協は、国際社会の一員として核兵器廃絶と世界平和の実現を目指す活動を推進しています。
今回は、長崎大学核兵器廃絶研究センター准教授の中村桂子さんを講師にお招きし、
核兵器を取り巻く世界的な動きや、私たちができること、今後の展望を一緒に考えました。



なかむら けいこ
中村 桂子さん
長崎大学核兵器廃絶研究センター (RECNA) 准教授。2012年までは特定非営利活動法人ピースデポ (横浜) 事務局長として、核軍縮・不拡散問題に取り組む。

世界にある核弾頭の数は 約13,880発

まずは、核兵器を巡る現状をお話ししましょう。
1970年、核兵器保有国は核兵器を完全にゼロにすることを義務とする「核不拡散条約 (NPT)」が発効されました。2017年7月、核兵器を全面的に非合法化する「核兵器禁止条約」が、国連に加盟する122カ国の賛成で採択されました。NPTの3本柱は、所持しているものから広げない「**核不拡散**」、武装をゼロにする「**核軍縮**」、「**原子力の平和利用**」です。50カ国が批准すれば発効されることになっており、2019年10月の時点では79カ国が署名、33カ国が批准しています。
2019年6月の時点で、世界の核弾頭数は約13,880発です。保有数のピークは1986～87年の冷戦時の約7万発で、年々減少しています。核兵器を保有するのはロシア、アメリカ、北朝鮮など9カ国です。日本をはじめ約30カ国は「核兵器を持たないけれど、保有国に依存している」状態です。この中には、アメリカの核兵器が配備されている国も含まれます。対して「持っていない

国」は、約150カ国。核兵器に依存しない政策をとっています。

核抑止論では 世界の安全は守られない

核保有国が「核兵器を持っておきたい理由」のひとつに「核抑止論」があります。「もし攻撃してくるなら、核兵器で反撃する」と牽制することで世界の安全を保ち“核兵器を持つことが、平和を守る唯一の手段だ”と主張しています。核保有国同士は、互いに胸元にピストルを突き付けあっているような状態です。私たちはその「核抑止」を問い直す必要があります。例えば2001年のアメリカ同時多発テロ事件のような、報復攻撃を恐れない相手には抑止が機能しませんでした。また、核の使用を前提とした抑止政策は「悪い奴は殺してもよい」という考えに基づき、新たな核の被害者を生み出します。それに、核兵器を保有することは事件・事故などの偶発的な使用の危険性を高めることにつながります。実際に、過去にはヒューマンエラーやコンピュー

ターの誤作動が原因で、核による誤った攻撃が行われようとしたこともありました。

さらに、研究シミュレーションでは、広島型原爆と同じ破壊力を持つ15ktの小型核爆発が都市部で100発起こった場合、最大で1,700万人が即死し、最大10年にわたり粉塵の塊が地球を浮遊するため、約20億人が飢餓に苦しむ可能性があると言われています。核兵器に、勝者はいないのです。

「核兵器は非人道的」を 世界の常識に

核兵器を製造しているのは、世界に数十ある民間企業です。彼らは銀行から融資を受け、その銀行は私たちから預かったお金を融資に回しています。つまり、私たちのお金が核兵器の製造に使われているのです。このことを受け、ヨーロッパを中心に、核兵器製造企業への投融資を禁止する金融機関が増えていきます。日本でも、一部の金融機関が融資禁止とする文書を公表しています。
歴史上では1972年以降、生物兵器や対人地雷などさまざまな兵器が国際条約により禁止されてきています。皆さんは対人地雷で足を失った人の写真を見たことがありますか？ これらの兵器が禁止されるに至ったのは「被害者がかわいそう」という世界中の声でした。

兵器の「非人道性」に注目が集まったことで、兵器に対する世界の価値観が変わりはじめてきたのです。

核兵器のない世界を目指すために必要なことは3つです。まず1つ、核を取り巻く「**事実を知る**」こと。2つ目は「**想像力を持つ**」ことです。核兵器によって廃墟になった町や、苦しむ人々の姿を想像してみましょう。すると、おのずと「核兵器は非人道的だ」と声を上げることができるのではないのでしょうか。このような声が高まれば、世界の意識は「今どき、核兵器を持つなんて時代遅れ」「恥ずかしい」になることでしょうか。そして3つ目は「**世界は変えられることを知っておく**」ことです。奴隷制度や女性の人権問題、環境問題への意識の変化など、私たち人間は「当たり前の価値観」を常に変えながら歴史を築いてきました。きっと核兵器についても同じであるはずなのです。

2020年に開かれる「NPT再検討会議」の目的は、実効性のある内容を確認することです。アメリカ・カリフォルニア州をはじめ、パリ、ワシントンDCといった行政がNPTを支持すると表明しています。時間がかかっても、NPTの批准は進んでいくと思われます。

平和活動への参加、ヒバクシャ国際署名への署名、「核兵器ゼロ」を求める声を核保有国の在日大使館に届けるなど、私たちにできることはたくさんあります。あなたの声は世論の一部となり、きっと世界を動かすことでしょうか。

「NPT再検討会議」に併せた現地行動に、 京都生協からも2名の組合員が代表参加します！

2020年4～5月、核兵器の不拡散と核軍縮を目的に話し合う「NPT再検討会議」が開催されます。2019年10月23日に開催された福知山会場の学習会では、NPT再検討会議の開催に併せた現地行動に参加する組合員代表2人より、代表派遣に向けての決意表明をいただきました。

日本に暮らす普通の主婦の視点から、核兵器の残酷さ、そして戦争は嫌だという、平和への思いを世界の人々に伝えたいです。

私たち生協代表団は、NPT再検討会議が行われる国連本部のあるニューヨークで、日本原水爆被害者団体協議会の方々や、全国の生協代表の皆さんと一緒に、次の3つの活動を行います。

1. 日本原水爆被害者団体協議会をサポートすること。
2. 核兵器廃絶を訴える主体的なアピールをすること。
3. 国際社会へ核兵器廃絶を求める市民の声を届けること。



▲(写真左より) 福知山会場の平和学習会講師、日本生協連の福島 加南子さん、組合員の西田 真理さん、姜 美名さん

ヒバクシャ
国際署名に
ご協力ください

ヒバクシャ国際署名も、核兵器廃絶につながる、誰もがすぐできる平和活動のひとつです。京都生協では署名活動に賛同、協力しています。下記の二次元バーコードよりアクセスして署名にご協力ください。

